

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成 22年 1月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570107664
法人名	社会福祉法人 成光会
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ひふみ」
所在地	秋田市上北手百崎字ニタ子沢1番地6 (電話)018-889-6294
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 22年 1月 21日

## 【情報提供票より】(21年12月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 6日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算7.3人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	運営管理費 18,600円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,470円	

## (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1	要介護2			2
要介護3	4	要介護4			2
要介護5	0	要支援2			0
年齢	平均 85歳	最低	79歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋田赤十字病院 海塩歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年12月に、国際的サービス管理規格の「ISO9001」の認証を取得し、これまで以上にサービスの向上に努め、利用者や家族の満足へ向け全スタッフが取り組んでいる。スタッフの育成にも熱心で、「目標設定シート」「コミュニケーションシート」「人事考課表」を活用しスタッフごとの目標を設定し、管理者が適宜チェック、アドバイス、コメントを寄せ、段階的にスキルアップできるような教育システムが確立されている。利用者の生活歴の中から役割を設定し、多くの場面でできることを見出し、自己決定できるようきめ細やかな支援がなされている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は特になし。地域へも積極的に情報を発信し、交流に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	年4回自己評価を行っている。担当を決め、多くのスタッフが携わるようにしており、職員教育の機会にもなっている。自己評価や業務改善提案書、外部評価のアンケートの結果を業務の改善につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、運営推進委員会が開催されている。家族を中心に毎回ではないが市職員、社協職員の参加もある。家族の参加が多く、利用者の状態の報告をしたり、家族からの要望を聞いたり、利用者にとっては面会の良い機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の請求書に連絡事項を同封し、必要に応じて電話連絡、急を要しない場合は運営推進会議や面会時に近況報告や意見交換を行っている。直接話しにくい場合を考慮し、公的機関の窓口をパンフレットで紹介しているが、面会時等に家族からの意見、要望が出やすい関係ができている。家族からの意見等は記録され、適切に対応されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	社協の職員が花を植えに来てくれたり、地域の保育園や福祉施設の行事に参加したりなどの交流が図られている。同法人の施設が隣にあるものの周囲に民家等は少ない立地であるが、利用者の状態を見ながら積極的に地域への働きかけがなされている。

## 2 . 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆとり・いたわり・思いやり」が法人の理念である。理念の実現に向けて意識的に地域に働きかけ、婦人部とも顔見知りになっている。また、社協の職員が花植えに来たりするなど、地域からの協力を得ながら、スタッフがゆとりを持ち業務に当たっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	品質方針、倫理要綱を掲示して周知を図っている。その実現のために月毎に経営計画を立て、毎日のカンファレンスで情報の共有化に努めている。スタッフごとの達成目標も理念に基づき決められている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社協の職員が花を植えに来てくれたり、地域の保育園や福祉施設の行事に参加したりと交流が図られている。同法人の施設が隣にあるものの、周囲に民家等は少ない立地であるが、利用者の状態を見ながら積極的に地域への働きかけがなされている。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年 4 回自己評価を行っている。担当を決め、多くのスタッフが携わるようにしており、職員教育の良い機会にもなっている。自己評価や業務改善提案書、外部評価のアンケートの結果を業務の改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進委員会が開催されている。家族を中心に毎回ではないが市職員、社協職員の参加もある。家族の参加が多く、利用者の状態の報告をしたり、家族からの要望を聞いたり、利用者にとっては面会の良い機会となっている。会議録も整備され、全スタッフが回覧しているが、そのことが記録上確認できなかった。</p>		<p>会議録は整備されており、スタッフが回覧しているので、そのことが確認できるように記録を整備することが望まれる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険に係る申請の代行業務を行っている。生活保護の受給中の利用者に関しては、生活保護課との連携を図っている。また、必要があればいつでも連携が図れる体制が整っている。</p>		
<p><b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書に連絡事項を同封し、必要に応じて電話連絡したり、急を要さない場合は運営推進会議時に個別に話す時間を設け、近況報告や意見交換を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接話しにくい場合を考慮し、公的窓口のパンフレットを紹介しているが、面会時等に家族から意見、要望等が出やすい関係づくりができています。家族からの意見等は記録され、適切に対応されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同法人内での異動があり、今年度は4名の異動があった。スタッフが新人だけにならないようにシフトを考慮するなどして、利用者の不安の軽減に努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「目標設定シート」「コミュニケーションシート」「人事考課表」を活用している。スタッフごとの目標を設定し、管理者が適宜チェック、アドバイス、コメントをすることで、段階的にスキルアップできるような教育システムが確立されている。スタッフの年間研修計画が作られ、内部研修も行われている。研修の報告は回覧され、共有化が図られている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国、秋田県グループホーム連絡協議会に加盟し、回覧物に目を通している。研修があれば参加できるシステムとなっている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に何度かホームに来てもらい、不安の解消に努め、納得して入居してもらうようにしている。事前に本人や家族に面接して聞き取りを行い、可能な限り情報を得ており、利用開始時も自然に溶け込めるよう配慮している。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>業務の中で利用者とマンツーマンで話す機会はなかなか持てないが、入浴や調理、買い物等の時に会話の機会を多く持ち、うまく話が出来ない利用者に関しては様子を見ながら声を掛けるなど、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向の確認が難しい利用者が増えているが、事業所では「私のできること・できないことシート」を活用している。利用者に応じて「できること、行っていること」を書き出し、支援の必要な部分を見極めながら利用者の自己決定を尊重している。		
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り、入居者の希望や家族の要望を取り入れた介護計画となっている。また、毎月利用者の状況を点数で評価するスケール評価を実施し、結果を介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、介護計画の妥当性について話し合いをし、必要に応じて都度見直しを行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えば正月には初詣に出掛けるなど、グループホームという少人数だからこそできる機能を活かし、入居者個々を大切に柔軟な対応を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに入居前からのかかりつけ医があり、通院は基本的に家族にお願いしている。受診の結果等は、家族と連絡を密に取り合い、把握している。また、同法人の訪問歯科診療を受け、口腔ケアに努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に、ホームの方針として看取りの支援は行わないこと、及びその理由について明記されている。		
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者に関わる書類はプライバシーに配慮しながら、見やすい工夫をして保管している。支援の場面では、利用者個々に合わせた言葉掛け、対応がされ、本人を尊重したケアを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、ストレスがたまらないように、外出計画を立てたり、買い物に誘ったり、同法人の行事に参加したりしている。ホームで行っている「学習療法(高齢者の認知力維持改善に関する療法)」も個々のペースに合わせ、無理強いすることなく行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは利用者の得意なことを見極め、食事の準備、調理、後片付けを一緒に行っている。食事の時には「さんが切ってくれたから美味しいね。」など、利用者の張り合いとなるような声掛けがなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	強制することなく、利用者の希望に応じた柔軟な入浴支援が行われている。入浴することを好まない利用者には、入浴表を基に本人の入浴状況を確認しながら促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や裁縫、踊り、絵を描く等、利用者の好きなことや得意なことを活かしてもらう場面を多く設けている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最近は新型インフルエンザの流行で外出の機会は少ないが、買い物、美容院利用、食材購入に出かけたり、同法人施設の行事に参加したり等、外出の機会を設けて気分転換を図っている。可能な利用者には外泊の機会も設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関はオープンとなっており、防犯のため夜間のみ施錠している。居室、トイレにも鍵はない。無断で外に出る利用者については、スタッフ間で声を掛け合うことを大切にし、外に出たいことの意味を理解できるように話し合う機会も設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防計画に基づき、年2回法人全体の防災訓練を行っている。訓練は日中想定と夜間想定で行われている。防災担当も決められ、事業所内に分かりやすく掲示されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの食事量がチェックさ、食事量、水分量が把握されている。また、食事の意欲がわくようにさりげなく声掛け等を行っている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用ホールは光が多く取り込める造りとなっており、ホーム内も明るく、いたるところに花や植物が置かれている。共用ホールには季節の歌が掲示され、飾りつけも利用者の描いた絵等を活かしながら季節を感じられるものになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドやタンスはホームの備え付けだが、希望があれば私物を持ち込めるようになっている。その他にも、馴染みの家具の持込があり、その人らしさを感じられる居室となっている。茶碗やカップ等も使い慣れた物、好みの物が使用されている。</p>		

は、重点項目。